

## 東洋・日本美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長岡龍作	1学期	月	3	東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本欣久	1学期	水	3	東洋・日本美術史特論Ⅲ
東洋・日本美術史特論Ⅲ	中国絵画通史	2	竹浪 遠	集中(2学期)			東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅳ	信仰と造形	2	長岡龍作	2学期	月	3	東洋・日本美術史特論Ⅱ
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本欣久	2学期	水	3	東洋・日本美術史特論Ⅳ
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡龍作	1学期	水	4	東洋・日本美術史研究演習 Ⅰ
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本欣久	2学期	水	4	東洋・日本美術史研究演習 Ⅱ

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LM11307， 科目ナンバリング：LIH-ART601J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ】

**1. 授業題目：**

信仰と造形

**2. Course Title (授業題目)：**

Faith and Creation of Image

**3. 授業の目的と概要：**

この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、日本の各時代の美術を取り上げ、特に仏教思想との関わりからその意味と表現を探っていく。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

**5. 学習の到達目標：**

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

- (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.
- (2) Students understand the world view projected on art.
- (3) Students learn how to understand expressions.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 古代日本の仏教美術と思想1—飛鳥時代
6. 古代日本の仏教美術と思想2—白鳳時代
7. 古代日本の仏教美術と思想3—奈良時代前期
8. 古代日本の仏教美術と思想4—奈良時代後期
9. 古代日本の仏教美術と思想5—平安時代前期—顕教
10. 古代日本の仏教美術と思想6—平安時代前期—密教
11. 古代日本の仏教美術と思想7—平安時代後期—撰関期
12. 中世日本の仏教美術と思想1—平安時代後期—院政期
13. 中世日本の仏教美術と思想2—鎌倉時代前期
14. 中世日本の仏教美術と思想3—鎌倉時代後期
15. まとめ

**8. 成績評価方法：**

レポート [80%]、出席 [20%]

**9. 教科書および参考書：**

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年

**10. 授業時間外学習：**

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM13308， 科目ナンバリング：LIH-ART602J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ】

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 近世以前絵画史ーダイジェスト版ー
- 3回目 狩野派の系譜(室町から桃山)
- 4回目 狩野派の系譜(江戸狩野と英派)
- 5回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 6回目 尾形光琳と乾山
- 7回目 日本刀とその精神
- 8回目 刀装具と鐔の意匠性
- 9回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 10回目 対外交渉と長崎派
- 11回目 沈南蘋と南蘋派
- 12回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 13回目 池大雅と高田敬輔の系譜
- 14回目 雪舟流1 一雲谷派と矢野派一
- 15回目 雪舟流2 一長谷川派と江戸の雪舟流一

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)  
『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)  
『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)  
『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

**1 0. 授業時間外学習：**

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他：**

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中（2学期）、単位数：2

担当教員：竹浪 遠（非常勤講師）

講義コード：LM98832、科目ナンバリング：LIH-ART603J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

中国絵画通史

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Painting History

3. 授業の目的と概要：

中国絵画は古代以来の歴史があり、伝統の上に創造が加えられることで豊かな展開を遂げてきた。この講義では、その始まりから伝統中国の最後の王朝となった清までの展開を、現存作品と関連文献によってたどっていく。美術史学の特徴である作品からのアプローチを重視し、各時代の代表作例を軸に論じていくことで、研究の方法を具体的に提示する。さらに作品成立の背景にある思想や文化等についても紹介する。中国絵画は日本絵画へ与えた影響も大きいいため、その具体的な様相にも言及する。以上によって、中国絵画史の総合的な理解が得られることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The history of Chinese painting has grown richly since ancient times, retaining both tradition and creation. In this lecture, the development from the Neolithic era to the Qing dynasty will be traced through existing works and related literature. The important point is to extract information from those works. It is a characteristic method of art history. By examining the masterpieces of each era, I will present concrete methods of studying art history and introduce the philosophy and culture behind works. Since Chinese painting had a great influence on Japanese painting, I will also mention its specific aspects. The purpose of the above is to gain a comprehensive understanding of the history of Chinese painting.

5. 学習の到達目標：

中国絵画史に関する基礎的な知識を理解するとともに、研究方法についても習得し、作品の意味や表現について自発的に観察、考察が行えるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim is to understand basic knowledge about the history of Chinese painting, learn the research methods, and to be able to spontaneously observe and consider the meanings and expressions of works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、主な画家や代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターや複製によって提示する。

- 1 中国絵画のルーツ1：新石器時代～殷・周（玉器、青銅器、金文）
- 2 中国絵画のルーツ2：春秋戦国（工芸意匠）
- 3 古代帝国の造形1：秦（始皇帝陵）
- 4 古代帝国の造形2：漢（仙界を巡る画像）
- 5 人物画の発達と画の六法：魏晋南北朝（顧愷之、陸探微）
- 6 道釈人物画の隆盛：隋～唐1（閻立本、吳道玄）
- 7 盛唐における山水の変と中唐の水墨画：唐2（海図と樹石画）
- 8 華北・江南山水画の成立：五代（荆浩、関仝、董源、巨然）
- 9 山水画の黄金期：北宋1（李成、范寛、郭熙）
- 10 文人画の確立：北宋2（文同、蘇軾、李公麟、米芾）
- 11 徽宗とその画院：北宋3（王希孟、張昞端）
- 12 院体画と僧侶の墨戯：南宋（李唐、馬遠、夏珪、牧谿、玉潤）
- 13 文人画の発展：元（趙孟頫と元末四大家）

14 浙派から呉派へ：明（戴進、李在、呂紀、沈周、文徵明）

15 南宗画の時代：明末～清（董其昌と清初の正統派、江南諸都市の画派）

**8. 成績評価方法：**

レポート：70%

授業参加状況と小課題：30%

**9. 教科書および参考書：**

『世界美術大全集 東洋編』（小学館）（全17巻、1997～2001年）。

小川裕充『臥遊』（中央公論美術出版、2008年）。

曾布川寛監修『中国書画探訪—関西の収蔵家とその名品—』（二玄社、2011年）。

宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波書店、2014年）。

竹浪遠『唐宋山水画研究』（中央公論美術出版、2015年）。

**10. 授業時間外学習：**

日ごろから博物館・美術館・社寺などに出かけ、美術作品を実際に見てもらいたい。また、『論語』、『莊子』、『史記』、『唐宋八家文』など中国の代表的な古典に親しんでほしい。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LM21308， 科目ナンバリング：LIH-ART604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ】

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、宗教美術と人間との関わりをさまざまな観点から探る。さらに、神祇信仰と美術の関わりについても論じる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の間を関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.
- (2) Students understand the world view projected on art.
- (3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 信仰と美術 1 作善と福行
3. 信仰と美術 2 願文考
4. 信仰と美術 3—旅と善業① 華嚴経
5. 信仰と美術 4—旅と善業② 龍宮
6. 信仰と美術 5—旅と善業③ 霊場
7. 信仰と美術 6—奉納と埋納① 正倉院
8. 信仰と美術 7—奉納と埋納② 経塚
9. 「神仏習合」とその表現 1—仏教と神仙思想
10. 「神仏習合」とその表現 2—天と神仙
11. 神祇信仰と美術 1—菩薩となる神
12. 神祇信仰と美術 2—神身離脱する神
13. 日本美術の諸相 1—隠逸と造形
14. 日本美術の諸相 2—都鄙と美術
15. 日本美術の諸相 3—美術と自然

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM23307， 科目ナンバリング：LIH-ART605J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論IV】

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様に複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つけ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

1回目 江戸絵画の「真」「贋」－研究に立ちふさがる壁－

2回目 江戸と浮世絵1

3回目 江戸と浮世絵2

4回目 武士の絵画1－鑑戒－

5回目 武士の絵画2－暢神－

6回目 京都と円山派1－円山応挙－

7回目 京都と円山派2－応挙の門人たち－

8回目 京都と四条派－蕪村、呉春とその門人－

9回目 天下の台所・大坂の絵画

10回目 好古家と考古学の黎明

11回目 江戸の絵画1－諸大名の文芸と谷文晁の登場－

12回目 江戸の絵画2－洋風画(司馬江漢・渡辺華山)－

13回目 江戸の絵画3－渡辺華山「千山万水図」に描かれた景－

14回目 仏教における復古思想と書画

15回目 伊藤若冲－その真実を探る－

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

**1 0. 授業時間外学習：**

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他：**

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LM13406， 科目ナンバリング：LIH-ART606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

美術史基礎資料読解

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading the historical documents of art history

**3. 授業の目的と概要：**

この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『公刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.

**5. 学習の到達目標：**

基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

**8. 成績評価方法：**

出席 [50%]・発表内容 [50%]

**9. 教科書および参考書：**

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188

**10. 授業時間外学習：**

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM23406， 科目ナンバリング：LIH-ART607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

日本絵画作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Training to read information of the Japanese paintings

3. 授業の目的と概要：

「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めぐる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.

5. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることには慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクトおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目・3 回目 近世絵画

4 回目・5 回目 中近世の仏画

6 回目・7 回目 近世絵画

8 回目・9 回目 中近世の仏画

10 回目・11 回目 近世絵画

12 回目・13 回目 中近世の仏画

14 回目・15 回目 近世絵画

8. 成績評価方法：

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：

日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

